ab_test

2017年10月23日

1 2章 PyMC についてもう少し

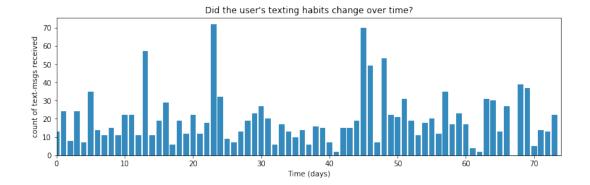
11 21はじめに

hoge は親変数 λ が確定しても変数の値は依然としてランダムである。これを stochastic 変数という。 random() メソッドを呼ぶと新たに値がサンプリングされる。

hoge_plus_1 は親変数 hoge が確定すると値がその場で確定する。これを deterministic 変数という。

```
In [1]: import pymc as pm
       import numpy as np
In [2]: hoge=pm.Exponential("hoge",1)
       hoge_plus_1=hoge+1
In [3]: print("hoge.value = ",hoge.value)
       print("hoge_plus_1.value = ",hoge_plus_1.value,"\n")
       hoge.random()
       print("After Calling .Random() \n")
       print("hoge.value = ",hoge.value)
       print("hoge_plus_1.value = ",hoge_plus_1.value)
hoge.value = 0.21546839338890156
hoge_plus_1.value = 1.21546839339
After Calling .Random()
hoge.value = 0.5563901523014116
hoge_plus_1.value = 1.5563901523
 deterministic 変数を生成するには
@pm.deterministic
   def some_deterministic_var(v1=v1,):
 こうすると明示的に生成できる。(キーワード引数じゃないとだめ)
 また hoge_plus_1 のように四則演算を行うと暗黙に deterministic 変数になる。
```

```
In [4]: sigma=1
       @pm.deterministic
       def var(sigma = sigma):
           return sigma**2
       print(type(var))
       print(type(hoge_plus_1))
<class 'pymc.PyMCObjects.Deterministic'>
<class 'pymc.PyMCObjects.Deterministic'>
 ここまでで事前分布の指定ができるようになった。次に観測データを組み込む。observed 引数を True に
することによって組み込む事ができる。random()メソッドを呼んでも固定値なので変わらない。
In [5]: fixed_var=pm.Poisson("fixed_var",1,value=np.array([10,15,20,25,30]),observed=True)
       print("fixed_var.value = ",fixed_var.value,"\n")
       fixed_var.random()
       print("After Calling .Random() ")
       print("fixed_var.value = ",fixed_var.value)
fixed_var.value = [10 15 20 25 30]
After Calling .Random()
fixed_var.value = [10 15 20 25 30]
1.2 2.2 モデリングのアプローチ
 以前のメッセージ受信数データを扱う。観測されたデータをどのように生成されたかを考える。
In [6]: %matplotlib inline
       from IPython.core.pylabtools import figsize
       import matplotlib.pyplot as plt
       figsize(12.5, 3.5)
       count_data = np.loadtxt("data/txtdata.csv")
       n_count_data = len(count_data)
       plt.bar(np.arange(n_count_data), count_data, color="#348ABD")
       plt.xlabel("Time (days)")
       plt.ylabel("count of text-msgs received")
       plt.title("Did the user's texting habits change over time?")
       plt.xlim(0, n_count_data)
Out[6]: (0, 74)
```



- 1. 計数のデータはポアソン分布が良いのでは?
- 2. ある日を境にメッセージの振る舞いが変わっていそうだから、 λ は 2 つ必要そうだ。まだ変化の日を τ としよう。
- 3. ポアソン分布にはパラメータ λ が必要だがわからない。正である必要があるから指数分布がいいだろう。指数分布にもパラメータ α がある。
- **4.** α も分からない。しかし特に信念があるわけではないから定数でいいだろう。 α にちょうどいい値はあるだろうか。 α に対して λ の平均値が観測データの平均となるようにとるとちょうど良さそうだ。
- 5. τについては何日目なのか見当がつかないので一様分布でいいだろう。

以下にこの考え方のグラフィカルモデルを書く。

これを pymc で記述する。

τ日を離散一様分布でサンプリングする。

18

指数分布 $Exp(\alpha)$ から λ_1 と λ_2 をサンプリングする。

ここで指数分布は $f_Z(z|\lambda)=\lambda e^{-\lambda z}$, $z\geq 0$ であるから指数分布の期待値は $E[\ Z\ |\ \lambda\]=\frac{1}{\lambda}$ となる。またポアソン分布 $P(Z=k)=\lambda^k e^{-\lambda}$ $\frac{1}{k!,;;k=0,1,2,...;;\lambda\in\mathbb{R}_{-}\{>0\}}$ の期待値は $E[\ ;Z;\ |\ ;\lambda;\]=\lambda$ \$となる。よってデータの平均をとって逆数を取れば α がもとまる。

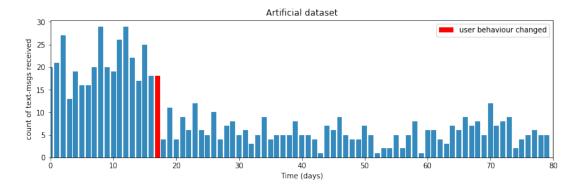
0.0506502395619

上記のように lambda_1,lambda_2 が定めたら、それを用いて日にちごとの λ の配列 lambda が作られる。

```
[ 21.748675
               21.748675
                             21.748675
                                          21.748675
                                                        21.748675
                                                                     21.748675
  21.748675
               21.748675
                             21.748675
                                          21.748675
                                                        21.748675
                                                                     21.748675
  21.748675
               21.748675
                             21.748675
                                          21.748675
                                                        21.748675
                                                                     21.748675
   5.73471551
                5.73471551
                              5.73471551
                                           5.73471551
                                                         5.73471551
                                                         5.73471551
   5.73471551
                5.73471551
                              5.73471551
                                           5.73471551
   5.73471551
                5.73471551
                              5.73471551
                                           5.73471551
                                                         5.73471551
   5.73471551
                5.73471551
                              5.73471551
                                           5.73471551
                                                         5.73471551
   5.73471551
                5.73471551
                              5.73471551
                                           5.73471551
                                                         5.73471551
   5.73471551
                5.73471551
                              5.73471551
                                           5.73471551
                                                         5.73471551
   5.73471551
                5.73471551
                              5.73471551
                                           5.73471551
                                                         5.73471551
   5.73471551
                5.73471551
                              5.73471551
                                           5.73471551
                                                         5.73471551
   5.73471551
                5.73471551
                              5.73471551
                                           5.73471551
                                                         5.73471551
   5.73471551
                5.73471551
                              5.73471551
                                           5.73471551
                                                         5.73471551
   5.73471551
                5.73471551
                              5.73471551
                                           5.73471551
                                                         5.73471551
   5.73471551
                5.73471551
                              5.73471551
                                           5.73471551
                                                         5.73471551
   5.73471551
                5.73471551]
```

この λ によって以下のデータを人工的に作成できる。

```
[20 21 27 13 19 16 16 20 29 20 19 26 29 22 17 25 18 18
                                                                      6 12 6
                                                         4 11
                                      5
                                          5
                                             8
                                                5
                                                   5
                                                               6
                                                                  9
                                                                      5
           2
              2
                                            7
                                                            5 12
                                                                            2
   5
                    2
                       5
                          8
                             1
                                6
                                   6
                                      4
                                          3
                                                6
                                                   9
                                                                     8
  4
    5
        6
           5 5]
```

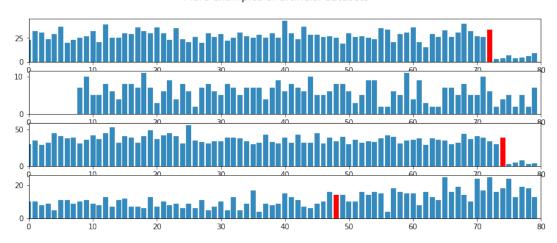


以下にいくつかのデータを生成して見たものを示す。

```
In [12]: def plot_artificial_sms_dataset():
        tau = pm.rdiscrete_uniform(0, 80)
        alpha = 1. / 20.
        lambda_1, lambda_2 = pm.rexponential(alpha, 2)
        data = np.r_[pm.rpoisson(lambda_1, tau), pm.rpoisson(lambda_2, 80 - tau)]
        plt.bar(np.arange(80), data, color="#348ABD")
        plt.bar(tau - 1, data[tau - 1], color="r", label="user behaviour changed")
        plt.xlim(0, 80)

figsize(12.5, 5)
    plt.suptitle("More examples of artificial datasets", fontsize=14)
    for i in range(1, 5):
        plt.subplot(4, 1, i)
        plot_artificial_sms_dataset()
```

More examples of artificial datasets



1.3 例題:ベイズ的 A/B テスト

A/B テストとは、2 つの異なる処置の効果の差を決定する統計処理ツールのこと。例えば製薬会社が薬 A と薬 B の効果の違いを知りたいとする。その時患者グループを 2 つに分割し、一方に薬 A を、もう一方に薬 B を処方する。この試験を繰り返し、統計学者がその効果を測定する。同じような例にどちらのウェブサイトのコンバージョン (登録、購入等のアクション) が良いかがあげられる。この際グループ間での差を一つだけに絞り込む。

実験後の分析としてp 値等を用いた仮設検定を行う事が多いが、ここではベイズ的アプローチを学ぶ。後者の例であるウェブサイトについて考える。サイトA をみてユーザーが最終的にコンバージョンに繋がる確率を p_A と仮定する。この確率は実際には解らないがサイトA の有効性を示す。

N 人のうち n 人がコンバージョンにつながったとしても n/N が p_A と等しいとは限らない。(例えばサイ

コロを投げて 1 がでる真の確率は 1/6 だが 6 回投げても 1 回も出ないことも多々ある。) ベイズ統計を使えば適切ば事前分布と観測データを元にして真の妥当な確率を推論する事ができる。今回の例では N(全訪問者数) と n(コンバージョン数) からコンバージョンの真の頻度を推定することになる。

 p_A の値に対して私たちは特に確信がないので [0,1] の一様分布でいいだろう。

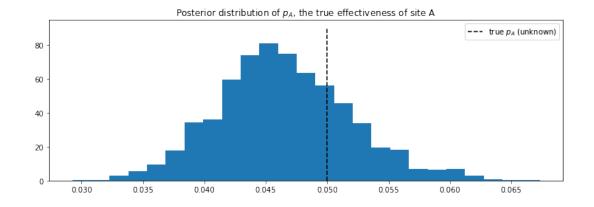
```
In [13]: p = pm.Uniform('p', lower = 0, upper=1)
    print(p.value)
```

0.2690516118616135

人口データのシミュレーションを行う。 $p_A=0.05$ として N=1500 ユーザーがサイト A を見せられたと 仮定する。N 回の試行をシミュレートするためにベルヌーイ分布を用いる。もちろん実際には p_A の値は知ら ないがここでは知っているものとしてシミュレートする。

観測データを PyMC の obs 変数に設定して推論アルゴリズムを実行する。

未知数 p_A の事後分布のプロットを示す。得られた事後分布は p_A の真の値はここだろう!という値が大きくなっている



サイト B についても同じように分析すれば p_B の事後確率を求める事ができる。実際に知りたいのは $delta=p_A-p_B$ なのでこの三つをまとめて推論しよう。 $p_B=0.04$ と仮定し、 $N_B=750(=N_A/2)$ とする。同様にサイト B に関してもシミュレーションでデータを生成する。

```
In [17]: import pymc as pm
    figsize(12, 4)

# these two quantities are unknown to us.

true_p_A = 0.05
    true_p_B = 0.04

# notice the unequal sample sizes -- no problem in Bayesian analysis.
N_A = 1500
N_B = 750

# generate some observations
observations_A = pm.rbernoulli(true_p_A, N_A)
observations_B = pm.rbernoulli(true_p_B, N_B)
print(observations_A.mean())
print(observations_B.mean())
```

- 0.0506666666667
- 0.04933333333333

データの生成は終わったので p_A 、 p_B を推論する。

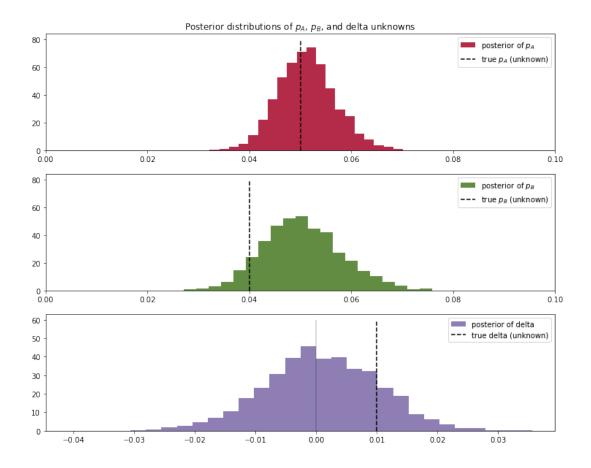
```
In [18]: #[0,1] の一様分布

p_A = pm.Uniform("p_A", 0, 1)

p_B = pm.Uniform("p_B", 0, 1)
```

#delta は引き算なので deterministic 変数になる。(デコレーターを使わずとも #四則演算を使えば暗黙に adeterministic になる)

```
@pm.deterministic
        def delta(p_A=p_A, p_B=p_B):
            return p_A - p_B
        #observed を True にして先ほどのデータを使う。
        obs_A = pm.Bernoulli("obs_A", p_A, value=observations_A, observed=True)
        obs_B = pm.Bernoulli("obs_B", p_B, value=observations_B, observed=True)
        mcmc = pm.MCMC([p_A, p_B, delta, obs_A, obs_B])
        mcmc.sample(20000, 1000)
 [-----] 20000 of 20000 complete in 1.5 sec
 3つの事後分布を以下に示す。サイト B についてはデータが少ないので p_B の裾野が広くなっている。 delta
の事後分布については大部分が delta=0 よりも右にあるのでサイト A の方がコンバージョンが良いことを
示す。
In [19]: p_A_samples = mcmc.trace("p_A")[:]
        p_B_samples = mcmc.trace("p_B")[:]
        delta_samples = mcmc.trace("delta")[:]
        figsize(12.5, 10)
        ax = plt.subplot(311)
        plt.xlim(0, .1)
        plt.hist(p_A_samples, histtype='stepfilled', bins=25, alpha=0.85,
                 label="posterior of $p_A$", color="#A60628", normed=True)
        plt.vlines(true_p_A, 0, 80, linestyle="--", label="true $p_A$ (unknown)")
        plt.legend(loc="upper right")
        plt.title("Posterior distributions of $p_A$, $p_B$, and delta unknowns")
        ax = plt.subplot(312)
        plt.xlim(0, .1)
        plt.hist(p_B_samples, histtype='stepfilled', bins=25, alpha=0.85,
                 label="posterior of $p_B$", color="#467821", normed=True)
        plt.vlines(true_p_B, 0, 80, linestyle="--", label="true $p_B$ (unknown)")
        plt.legend(loc="upper right")
        ax = plt.subplot(313)
        plt.hist(delta_samples, histtype='stepfilled', bins=30, alpha=0.85,
                 label="posterior of delta", color="#7A68A6", normed=True)
        plt.vlines(true_p_A - true_p_B, 0, 60, linestyle="--",
                   label="true delta (unknown)")
        plt.vlines(0, 0, 60, color="black", alpha=0.2)
        plt.legend(loc="upper right");
```



delta が良くなっているという推論が間違っているかどうかの確率は以下でわかる。

Probability site A is WORSE than site B: 0.472 Probability site A is BETTER than site B: 0.528

間違っている確率が高すぎる感があるが、サイト A,B のデータをもっと増やせば推論の質が上がる。ここまでが A/B テストのベイズ推論による方法である。仮設検定よりわかりやすい!!!(筆者曰く)